

社会福祉援助技術演習Ⅱ

~20◆

科目コード●CN4131

担当教員●関川伸哉・山川敏久・三浦 剛・石田力
佐々木裕彦・川口正義・佐藤博彦ほか

2 単位

SR

3 年以上

※この科目は、平成20年度以前入学者に対して開設されている科目です。平成21年度以降に入学した方は、履修することはできません。

※「社会福祉援助技術演習B」と合併授業となります。

科目の内容

『レポート課題集A（社福・精保指定科目編）』『社会福祉援助技術演習B』を参照してください。

到達目標

- 1) 一連の相談援助過程を具体的イメージを持って説明でき、その基本的な技術を演習場面において実践できる。
- 2) 事例などから支援計画を作成することができる。
- 3) 社会資源の活用やネットワーク形成の技術について具体的に説明できる。
- 4) プロセス評価、効果測定についてその方法を説明することができる。
- 5) 社会福祉援助活動で使用される基本的な言葉の意味を的確に説明することができる。

教科書（いずれも「社会福祉援助技術演習Ⅰ」と共通）

- 1) 白澤政和・中谷陽明・長谷川匡俊・上野谷加代子編集『社会福祉士相談援助演習（第2版）』中央法規出版、2015年（第2版でなくても可）
- 2) 必要に応じて他の書籍・資料を配布します。

（最近の教科書変更時期）2015年3月

履修登録条件

この科目は、「社会福祉援助技術演習Ⅰ」をすでに履修登録済みか、同時に履修登録をするのみが履修登録できます。

在宅学習15のポイント

『レポート課題集 A (社福・精保指定科目編)』『社会福祉援助技術演習 B』参照

レポート課題

※レポートの提出方法は、p.39を参照のこと。

1 単位め

相談援助実践における記録の意義と具体的記述方法をまとめてください。また、ソーシャルワーカーにとって地域社会資源の活用や開発の①意義や必要性②その留意点について述べるとともに、同じく相談援助におけるスーパービジョンの目的、機能、あり方についてまとめてください。

(担当：佐藤博彦)

2 単位め

平成18年に改正、平成19年に公布された「社会福祉士および介護福祉士法」の一部改正に伴う、今後の社会福祉士の役割と課題についてまとめてください。

(担当：関川伸哉)

アドバイス

※レポート作成に当たっては、ご自身の経験だけでなく、教科書をよく読んでうえで取り組んでください。2単位めは5冊以上の文献にあたってください。ただし、教科書や文献の丸写しは避けてください。

1単位め 解説

ソーシャルワーク実践における記録の意義とはなんのでしょうか。まず、何故ソーシャルワーク実践において記録が必要なのか考えてみましょう。また、記録形式や文体についてまとめてください。次に、スーパービジョンについてです。スーパービジョンは、ソーシャルワーク実践に関して、知識・技術・倫理等が十分備わっていないワーカーに対してもなされるものですが、経験豊かなワーカーにもその必要性があります。ソーシャルワーク実践において、実践に携わるすべてのワーカーに対して、何故スーパービジョンが必要なのでしょう。そのスーパービジョンの目的、機能、あり方についてまとめてみましょう。また、記録とスーパービジョンの関係性も併せて考察してみましょう。

また、現在、相談援助技法の一つと考えられているケアマネジメントは、利用者のニーズと社会資源を結びつけることがその中心的な概念です。そこで地域の社会資源活用やそれらが十分とは言えない場合、また使いにくい場合の開発の考え方や方法は、ケアマネジメントの学習を通しておこなうのがよいと思います。本冊子 p.39の参考図書を参考にしてください。

2単位め
解説

はじめに、平成19年公布の法改正にいたる背景について整理してください。その後、課題について客観的にまとめてください。その際に、事実と各自の考察（考え）をしっかりと分けて作成するように心掛けてください。また、レポート作成の際には、必ず章立てを行ってください。

記載方法（例）

1. 法改正にいたる背景について
2. 改正の主な〇〇について
3. 今後の社会福祉士の役割について
4. 今後の社会福祉士の課題について
5. まとめ

引用・参考文献

※レポート末尾に本文中で使用した引用・参考文献を必ず5つ以上明示してください。

参考図書

- 1) 福山和女編著『ソーシャルワークのスーパービジョン』(MINERVA 福祉専門職セミナー14)、ミネルヴァ書房、2005年
- 2) 副田あけみ・小嶋章吾編著『ソーシャルワーク記録—理論と技法』誠信書房、2006年

レポートの提出方法・期限

- ・ 1単位につき1冊のレポート用紙を使用してください。
- ・ 各レポートの字数は2,000字程度ですが、最長4,000字程度まで可です。
(パソコン用：左右40字×30行×4枚まで、手書き用：最終ページまで。)
- ・ 各レポート用紙表紙には、「レポート課題」記載の担当教員名を記入してください。

1単位めは、スクーリング受講判定日までに提出してください。

2単位めは、スクーリング受講後11/30までに提出してください。

演習Ⅱ スクーリング受講条件

下記(1)(2)を満たしていることが必要です。

- (1) 3年生以上の方、または10月生は9/15時点で、4月生は3/15時点で2年生の方。
- (2) 受講判定日（9～11月開講分：9/15・10/15、5～6月開講分：3/15・4/15）までに、下記の①～④の条件を達成していること。

- ① 「社会福祉援助技術論Ⅰ」「社会福祉援助技術演習Ⅰ」の2科目分すべてのレポート提出。

- ② 上記2科目以外に社会福祉士・指定科目のなかから4科目分すべてのレポート提出（個別単位認定科目を除く）。
- ③ 「演習Ⅱ」の1単位めレポートの提出。
- ④ 認定単位を除き20単位以上の修得。

※9～10月のスクーリングは9/15時点で条件を満たさないと、原則受講できません。

演習Ⅱ スクーリング申込手続

申込時の注意点

- ・ 申込締切は **9/15** または **3/15** です。
- ・ 『With』（7～8月号や1月号を予定）巻末の申込ハガキまたは用紙を郵送すること。
- ・ 必ず第2希望まで○をつけること（第1希望と同一は不可）。
- ・ 申込後の希望の変更は受け付けかねます。

各申込日について

- ・ **9/15締切**の申込→9～11月に受講を希望する方がお申込みください。
- ・ **3/15締切**の申込→5～6月に受講を希望する方がお申込みください。

スクーリング受講クラスの決定方法

『レポート課題集 A（社福・精保指定科目編）』『社会福祉援助技術演習 B』参照。

スクーリング講義概要

『試験・スクーリング 情報ブック』をご参照ください。

単位認定

『レポート課題集 A（社福・精保指定科目編）』『社会福祉援助技術演習 B』参照。